

**●浜の話題**

- 1月16日、鎌倉漁協漁業研究会所属の漁業者10名は、千葉県海匝（かいそう）漁協匝瑳（そうさ）支所を視察しました。一行は、同支所所属の漁業者から、貝けた網や鋤簾（じょれん）などのチョウセンハマグリを獲る漁具・漁法について説明を受けました。



県外視察の様子

- 1月17日、神奈川県定置漁業研究会は平成30年度の防汚剤性能試験を完了しました。同研究会が民間会社からの委託を受け、岩漁協の定置網で毎年実施しているもので、今年度は十数種類の防汚剤について性能比較を行いました。防汚剤は海域により効果が大きく異なるため、これまでの試験結果をみて、より効果の高い塗料の使用を検討する漁業者もいます。研究会では、今後も試験結果を定置漁業者に情報提供していきます。



回収した防汚剤試験枠

- 1月20日から、鎌倉漁協漁業研究会は磯焼け対策の一環としてムラサキウニの除去を行っています。12月に開催した研修会の内容を踏まえて、各会員が覗突き（みづき）漁の際にムラサキウニをタル1杯（約70個）漁獲するようノルマを設けており、その結果、1月中に約1,000個のムラサキウニを除去できたとのことです。



漁獲されたムラサキウニ

- 1月22日、神奈川県地域協議会が主催する「神奈川県地域協議会研修会」が横須賀市の県横須賀合同庁舎で開催され、県内で磯焼け対策に取り組む活動組織の構成員など36名が出席しました。研修会では、水産多面的機能発揮対策事業の県内の活動事例として、城ヶ島地区の食害生物除去の取組みと葉山地区のアマモ・カジメ藻場保全の取組みについて発表があり、出席者は熱心に意見交換を行っていました。
- 1月28日、葉山町漁協所属の矢嶋青年漁業士（ゆうしげ丸）、小坪漁協所属の大竹組合長（大竹丸）と座間指導漁業士（ヴェルデ丸）、鎌倉漁協所属の原青年漁業士（三郎丸）の計4名が、藤沢市漁協の湘南はまぐり（チョウセンハマグリ）漁業について視察しました。当日は、藤沢市漁協の葉山組合長（堀川綱）から、貝けた網の曳き方について説明がありました。葉山、小坪、鎌倉地区では今回の視察内容をふまえ、今後チョウセンハマグリの調査を実施する予定で、小坪漁協の2名はそのために貝けた網を借り受けました。



貝桁網漁業について説明を受ける一行

- 1月29日、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会は、箱根のホテル南風荘で通常総会を行いました。今回は協議会設立30周年を迎える記念すべき総会で、当日は会員、関係機関等から計31名の出席がありました。総会では前年度事業・収支決算報告のほか、新年度事業計画案等の議題が議決されました。終了後は懇親会が開催され、参加者で様々な意見交換が行われました。



総会の様子

- 1月30日、茅ヶ崎地魚倶楽部は、活動内容のPR方法を検討するための会合を開きました。その結果、小さなのぼりや、協力店が店先に掲げるフラッグを作製して効果的にPRしていくほか、イベントの開催についても今後検討していくこととなりました。
- 1月31日、平塚市漁協で漁業新技術検討会が開催され、漁協をはじめ県や市、東京大学生産技術研究所、関連企業等の幅広い分野から合計14名が出席しました。出席した民間企業が開発中の水中カメラや、そのカメラで撮った映像などの情報が提供され、活発な意見交換が行われました。



活発に話し合う参加者



開発中の水中カメラの紹介

## ●お知らせ

- 2月1日、初声、城ヶ島、上宮田の3漁協が合併し、新たに「三和（さんわ）漁協」が誕生しました。旧・初声漁協が新漁協の本所となり、旧・城ヶ島漁協および旧・上宮田漁協はそれぞれ城ヶ島支所、上宮田支所となります。各事務所の住所、電話番号に変更はありません。